

平成28年 3月22日

中部地方整備局

お知らせ

伊勢湾再生を願う102団体が伊勢湾流域圏252地点で水環境を一斉調査！

～平成27年度 伊勢湾流域圏一斉モニタリング結果について～

1. 概要 :

伊勢湾再生推進会議（行政14機関にて構成、別紙—1参照）では、伊勢湾再生行動計画の一環として、昨年夏に「伊勢湾流域圏一斉モニタリング」を行いました。その調査結果について取りまとめましたのでお知らせします。

○調査期間：平成27年7月7日（火）～8月23日（日）

○参加者及び調査地点

参加者：学校、個人、市民団体、民間企業など102団体

調査地点：伊勢湾の海域27地点

伊勢湾に流れ込む河川等225地点

○調査内容：水質（パックテスト等）、ゴミ、水生生物

○調査結果：別紙—2のとおり

本モニタリング調査は、水質及び生物の生息状況を継続的に調べることで、伊勢湾流域圏における水環境の状態を把握するとともに、多くの皆様に伊勢湾に関心を持っていただき、伊勢湾再生への意識を高めることを目的としています。

今回お知らせするのは、主に市民の皆様が行った「簡易水質テスト、ゴミ・水生生物調査」の結果を取りまとめたものです。

伊勢湾再生推進会議では、引き続き、「人と森・川・海の連携により健全で活力のある伊勢湾を再生し、次世代に継承する」ことをスローガンとして、伊勢湾再生行動計画に基づき伊勢湾再生に取り組んでいくこととしています。

2. 資料 : 平成27年度 伊勢湾流域圏一斉モニタリング結果の概要（別紙—2）

※なお、今回の一斉モニタリング結果の詳細は、下記URLからダウンロードしていただけます。

http://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/sai_ise/b_issei.htm

3. 配付先 : 中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ、岐阜県政記者クラブ、三重県政記者クラブ、四日市市政記者クラブ、港湾新聞、港湾空港タイムス、日本海事新聞、海事プレス

4. 問合せ先 : 伊勢湾再生推進会議事務局

国土交通省中部地方整備局港湾空港部 海洋環境・技術課

課長補佐 武田 久二 TEL : 052-209-6329



伊勢湾再生推進会議の構成機関

国土交通省 中部地方整備局
海上保安庁 第四管区海上保安本部
内閣府 内閣官房 地域活性化統合事務局
農林水産省 東海農政局
林野庁 中部森林管理局
水産庁 漁港漁場整備部
経済産業省 中部経済産業局
環境省 中部地方環境事務所
岐阜県
愛知県
三重県
名古屋市
名古屋港管理組合
四日市港管理組合

平成27年度 伊勢湾流域圏一斉モニタリング結果の概要 —簡易水質テスト・ゴミ・水生生物調査結果—

1. モニタリングの目的

水質、生物の生息状況を継続的に調査することで伊勢湾流域圏全体における水環境の状態を把握するとともに、多くの皆様から伊勢湾に関心を持っていただき、伊勢湾再生への意識を高めることを目的としています。

2. モニタリングの実施内容

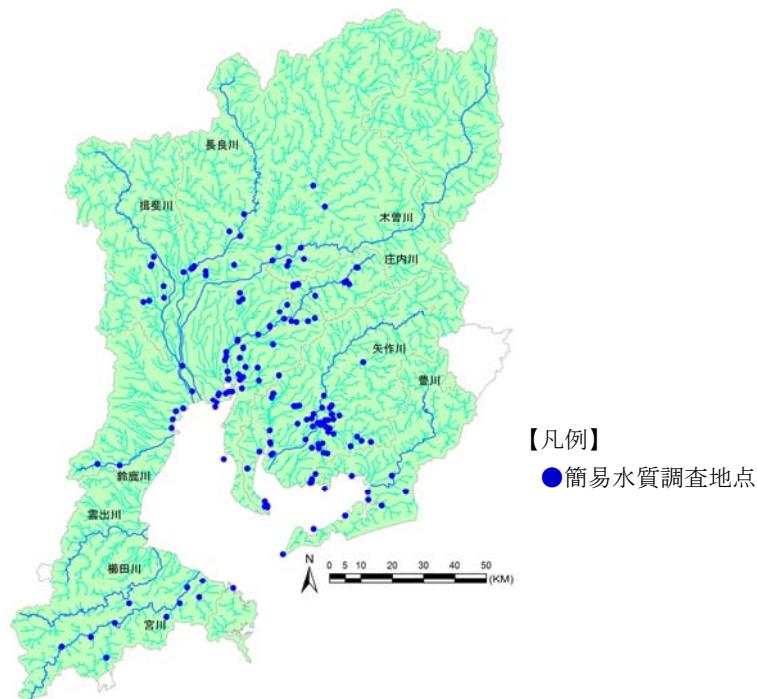
今回の一斉モニタリングでは、簡易に水質テストが行える調査キットを活用して、海の水質が悪くなりやすい夏の時期に、伊勢湾の海域（27地点）や伊勢湾に流れ込む河川の集水域（225地点）で、学校、個人・市民団体、民間企業など、102団体の参加により水質等の一斉調査を実施しました。なお、今回お知らせするのは、主に市民の皆様が行った「簡易水質テスト・ゴミ・水生生物調査」の結果をまとめたものです。

(1) モニタリング期間

平成27年7月7日（火）～8月23日（日）

(2) モニタリング調査項目

水質（COD、アンモニウム態窒素、亜硝酸態窒素、硝酸態窒素、りん酸態りん）、ゴミ、水生生物



平成27年度の一斉モニタリング（簡易水質テスト）調査地点

3. 調査結果

●簡易水質テスト

パックテストという調査キットで、伊勢湾や伊勢湾に流れ込む河川の水質を調べました。調査結果のうち、CODとりん酸態りんの分布は、次のようになりました。

COD（化学的酸素要求量）

りん酸態りん（ $PO_4^{3-}-P$ ）



COD は、湖沼や海域の有機物による水の汚れを示します。汚れるにつれて値が大きくなります。

市街地を流れる河川、中小河川において、5mg/L 以上の高い値が観測されています。一般的には、生活排水等により、濃度が高くなっていると考えられます。

5mg/L 未満の比較的良好な水質が占める割合は流域全体の4割程度ですが、平成25年度以前と比較して昨年度(平成26年度)以降は改善傾向にあります。

りん酸態りん($PO_4^{3-}-P$)は、りんの主な形態の一つです。植物の生育に必要な要素で、生物の死骸により供給されますが、生活排水、肥料にも多く含まれます。

市街地を流れる河川、中小河川において、0.11mg/L 以上の高い値が観測されています。一般的には、生活排水や田畑からの肥料分の流出、畜産排水等により、濃度が高くなっていると考えられます。

0.11mg/L 未満の比較的良好な水質の占める割合は8割程度と高く、昨年度(平成26年度)や平成24年度以前と比較して改善傾向にあります。



調査キット（パックテスト）による水質調査の状況

● 「水のきれいさ」の感覚的な評価

調査した方に「水のきれいさ」を、見た目で、5段階評価していただきました。

水のきれいさ



評価は、(悪い 1・2・3・4・5 良い)の5段階でしていただきました。この結果は、調査した方が感じた調査地点の水の印象の示標と考えられます。

市街地を流れる河川の一部や、湾奥部でも4以上の比較的水がきれいという評価がされており、見た目の印象は、COD等の調査結果よりもやや良い結果となっています。

また、一部の観測地点において、3未満の比較的悪い評価が見られますが、流域全体としては9割程度が3以上の比較的水がきれいという評価が多く、その割合は昨年度より改善しています。

● ごみ調査・水生生物調査

ごみの漂着状況や水生生物の生息状況についても、調査が行われました。



ごみの漂着状況



川での生物観察の状況

4. モニタリング詳細情報

一斉モニタリング結果の詳細は、以下のURLよりご覧いただけます。

http://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/sai_ise/b_isei.htm